

2024年3月期 決算説明資料



クオールホールディングス株式会社

2024年5月21日

東証プライム：証券コード 3034

The Prime Market of the Tokyo Stock Exchange
3034



INDEX

目次

- I 決算概要
- II クオーレグループの3か年目標
- III 事業戦略
- IV サステナビリティ経営の推進

I

決算概要

【連結】

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に移行したことに伴い、調剤薬局事業
医療関連事業ともに需要が回復し売上高は増収、一方で調剤薬局事業・医薬品製造販売事業の仕入価格の
上昇により営業利益は減益

調剤薬局事業

- ・ 既存店の処方箋枚数の回復
- ・ 前期及び今期の出店により処方箋枚数が増加し
売上が伸長
- ・ 薬価改定および地域支援体制加算の経過措置
終了の影響
- ・ 原価の上昇

医療関連事業

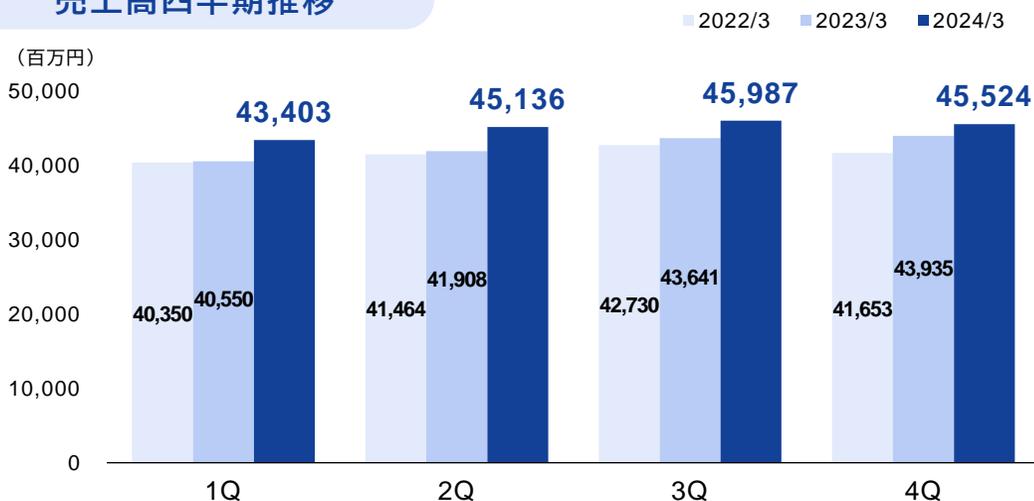
- ・ 医療系人材紹介派遣(薬剤師/登録販売者)の
需要の回復と市場の活性化
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連製品の反動による
販売量減の影響
- ・ 医薬品製造販売事業の薬価改定影響、原価の高騰

2024年3月期 連結業績ハイライト

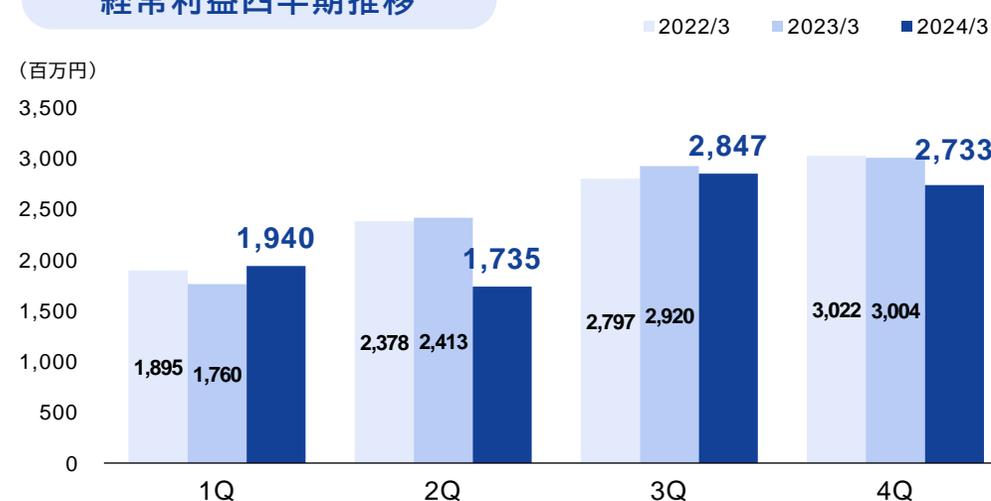


	2023／3期 実績	2024／3期 実績	前期比		達成率
			増減額	増減率(%)	
売上高	170,036	180,052	10,015	5.9%	100%
営業利益	9,495	8,324	△1,170	△12.3%	83.2%
経常利益	10,098	9,256	△841	△8.3%	86.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,656	4,880	△775	△13.7%	78.7%
1株当たり 当期純利益(円)	152.96	131.11	△21.84	△14.3%	78.7%

売上高四半期推移



経常利益四半期推移



連結損益計算書



(単位:百万円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	増減	増減率(%)
売上高	170,036	180,052	10,015	5.9%
売上原価	146,531	156,802	10,271	7.0%
売上総利益	23,504	23,249	△255	△1.1%
販管費	14,009	14,925	915	6.5%
営業利益	9,495	8,324	△1,170	△12.3%
利益率	5.6%	4.6%	—	—
経常利益	10,098	9,256	△841	△8.3%
利益率	5.9%	5.1%	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,656	4,880	△775	△13.7%
利益率	3.3%	2.7%	—	—

連結貸借対照表



(単位:百万円)	2023.3.31	2024.3.31	増減
流動資産	44,214	52,690	8,476
現金及び預金	18,770	27,282	8,512
固定資産	57,689	65,089	7,399
有形固定資産	16,108	16,281	173
無形固定資産	33,790	33,136	△654
投資その他の資産	7,791	15,670	7,879
資産合計	101,905	117,779	15,874
流動負債	36,330	38,823	2,493
固定負債	16,719	26,118	9,399
負債合計	53,049	64,941	11,892
有利子負債	22,983	31,882	8,899
純資産	48,856	52,837	3,981
自己資本	48,808	52,789	3,981
負債純資産合計	101,905	117,779	15,874

(単位:百万円)

流動資産	+ 8,476
現金及び預金	+ 8,512
受取手形、売掛金及び契約資産	△41
固定資産	+ 7,399
関係会社株式	+ 7,714
流動負債	+ 2,493
固定負債	+ 9,399
長期借入金	+ 9,438
純資産	+ 3,981

自己資本比率: **44.8%**

- ・成長投資のための借入の有効活用
- ・財務レバレッジ

➡ **変化への即応体制**

キャッシュフロー計算書



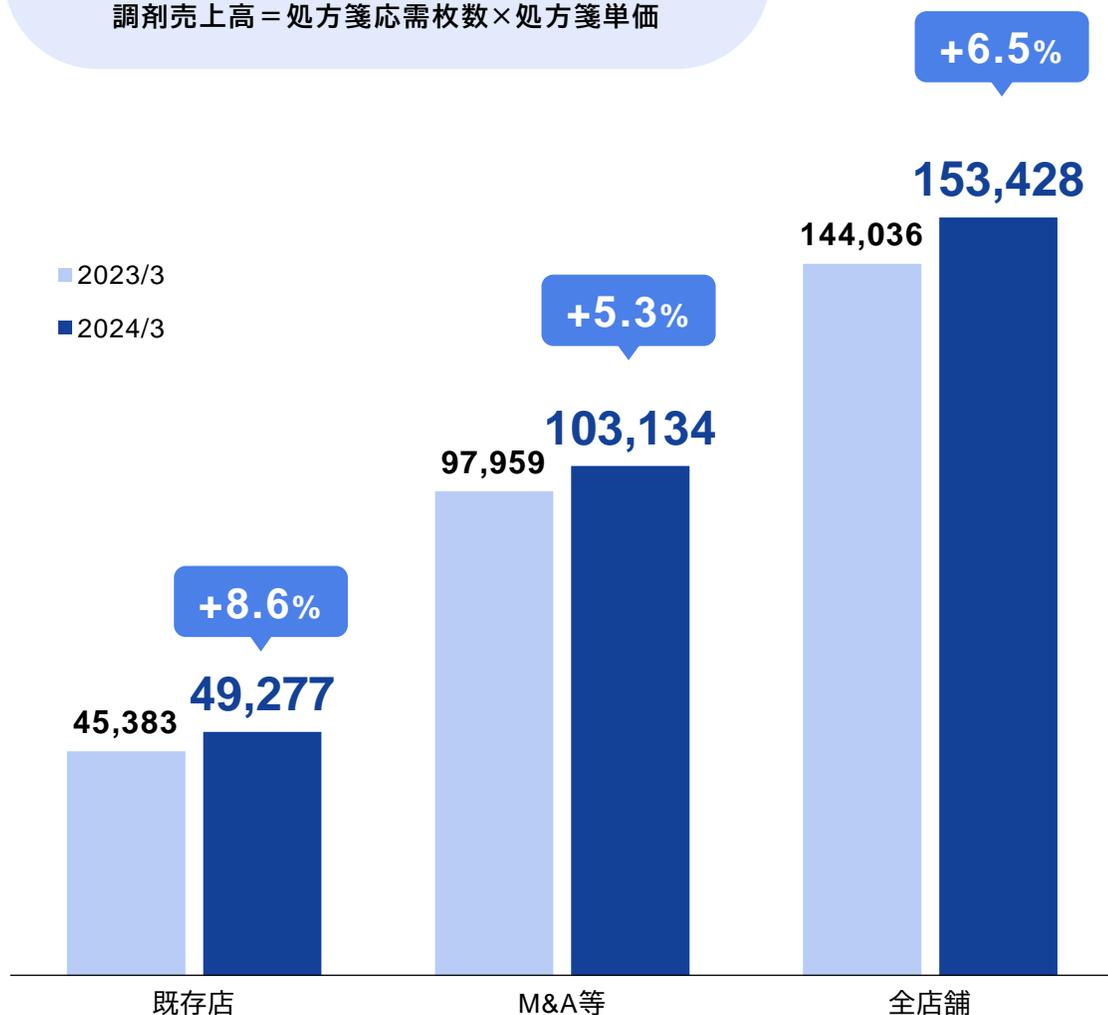
(単位:百万円)	2023.3.31	2024.3.31
営業活動による キャッシュ・フロー	11,662	13,533
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 7,013	△ 13,155
フリーC/F	4,648	377
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,569	7,969
うち配当金の支払額	△ 1,092	△ 1,205
現金・現金同等物の 増減額	2,079	8,347
現金・現金同等物の 期首残高	16,516	18,596
現金・現金同等物の 期末残高	18,596	26,944

	(単位:百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,871
税金等調整前当期純利益	△ 723
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,142
関係会社株式の取得による支出	△ 7,570
財務活動によるキャッシュ・フロー	+10,538
長期借入れによる収入	+9,300
長期借入金の返済による支出	+1,015

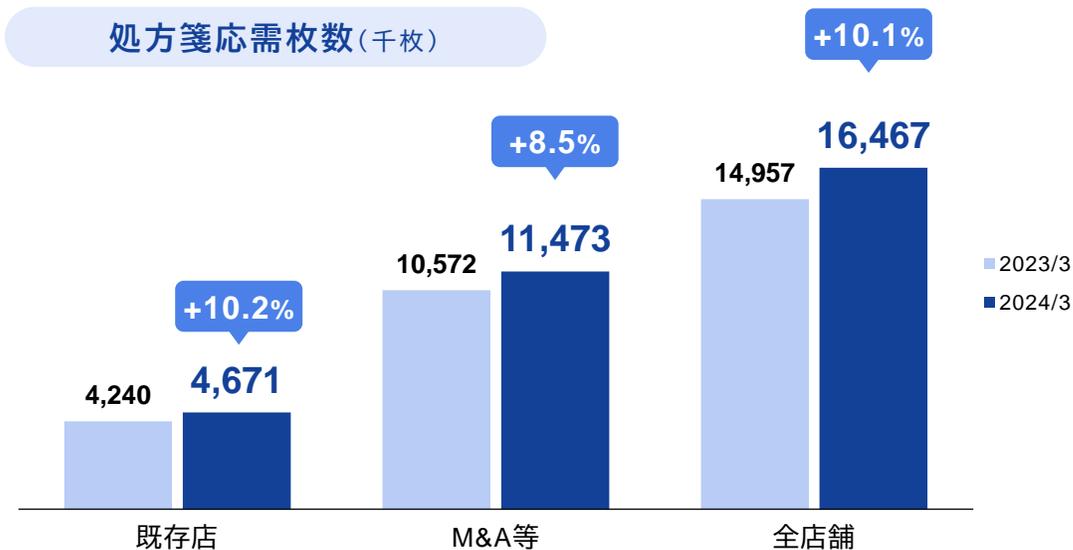
(単位:百万円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績
調剤薬局事業売上高	155,370	165,099
セグメント利益	11,499	10,730
利益率(%)	7.4%	6.5%
医療関連事業売上高	14,665	14,952
セグメント利益	1,534	1,136
利益率(%)	10.5%	7.6%

調剤売上高(百万円)

調剤売上高 = 処方箋応需枚数 × 処方箋単価



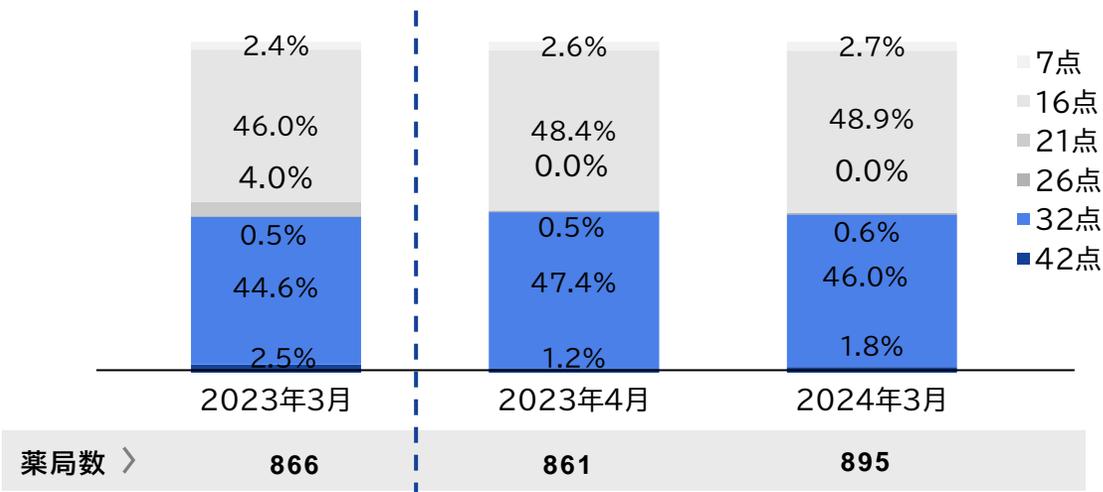
処方箋応需枚数(千枚)



処方箋単価(円)

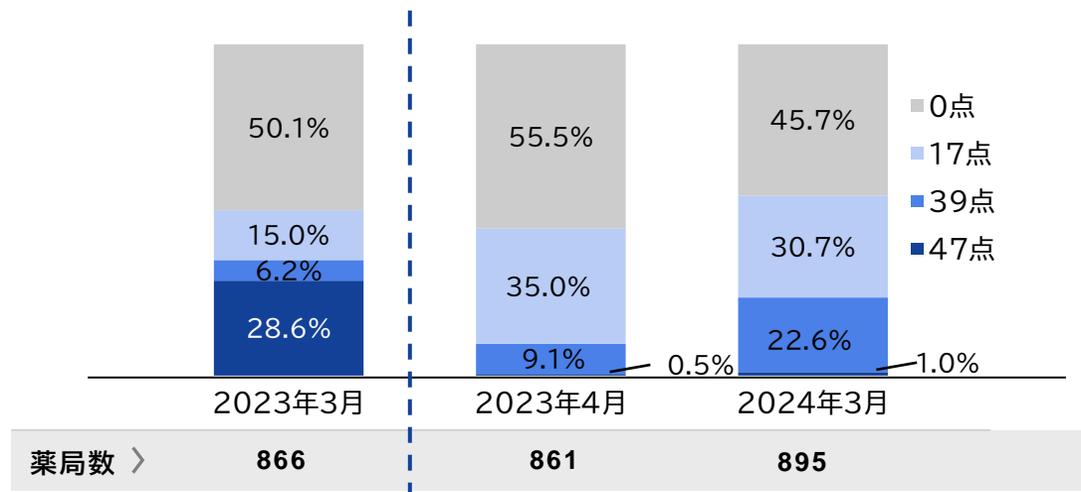


調剤基本料 店舗割合

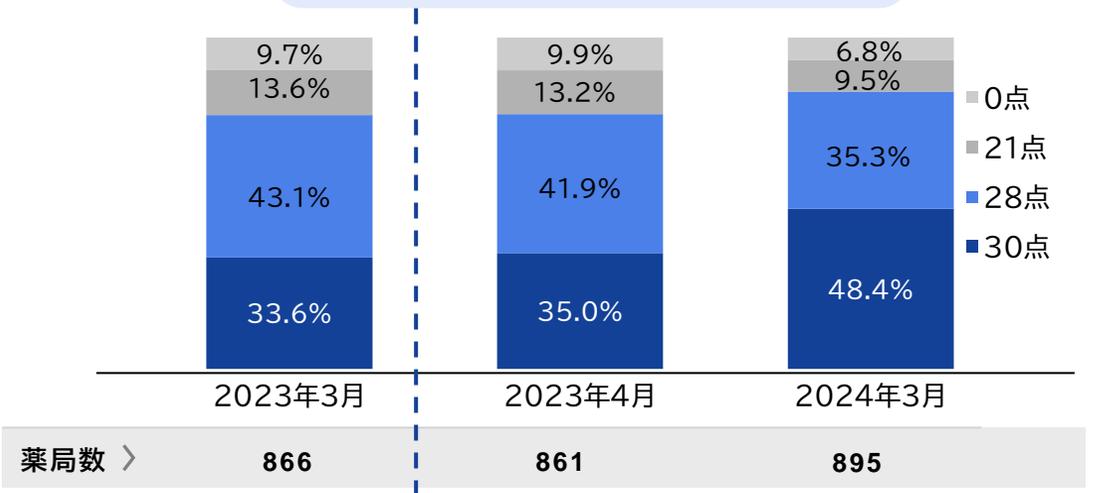


地域支援体制加算 店舗割合

(連結ベース)



GE医薬品調剤体制加算 店舗割合



GE変更率(数量ベース)

88.0%
(2024年3月)

クオールおくすり便

LINE公式アカウントによる

事前処方箋送信 & オンライン服薬指導

会員登録数 280,000人超*2024年4月末時点

電子処方箋対応薬局の増加

設置数 310店舗*2024年4月末時点

今年度全店舗導入へ

マイナ保険証普及へのチャレンジ

全国トップクラスの利用率

自動精算機・AI-OCRの導入

処方箋入力作業を自動化。生産性向上へ



薬局としての付加価値向上

効率性を高め、対人業務を強化

「あなたの、いちばん近くにある安心」
の実現へ



Daiichi-Sankyo

第一三共エスファ株式会社

■株式取得

- | | | |
|-------------|----|-----|
| ①2023年10月1日 | 取得 | 30% |
| ②2024年 4月1日 | 取得 | 21% |

2024年4月より株式保有割合51%
連結子会社化

セグメントの変更

第一三共エスファの連結子会社化に伴いセグメントは3つに分ける

保険薬局 事業

■調剤薬局の運営

医療関連 事業

- CSO事業
- CRO事業
- 医療系人材の紹介・派遣
- 医療系出版

医薬品製造販売 事業

■医薬品製造販売の運営

II

クオールグループ の3か年目標



①環境認識

あらゆる要因により、取り巻く環境はより不確実に、加速度的・非連続に変化

✓地政学的リスク

✓環境・社会課題への迅速な対応

✓技術の加速度的進歩

✓気候・疫病リスク

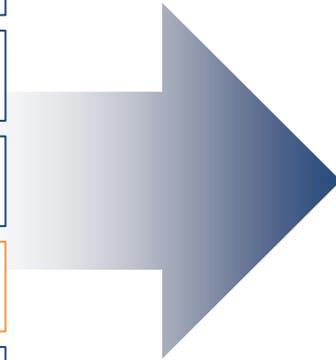
✓ドラッグストアによる再編・攻勢

✓薬局の役割の変化

✓診療報酬の下方改定

✓医薬品供給不安

⋮



不確実に変化する環境の中でも
持続的に成長する企業に

②クオールグループのめざすもの

医薬品に集中特化した 「総合力」の発揮

1 医薬品に集中・特化して成長

2 中期目標の早期達成

3 経営基盤の強化・安定化

すべてのひとの
生涯健康のパートナーで
あり続ける

③クオールグループ3か年目標達成のための成長戦略

目標達成のための3つの成長戦略

質の向上



規模拡大



更なる成長



④クオールグループ 3か年業績目標

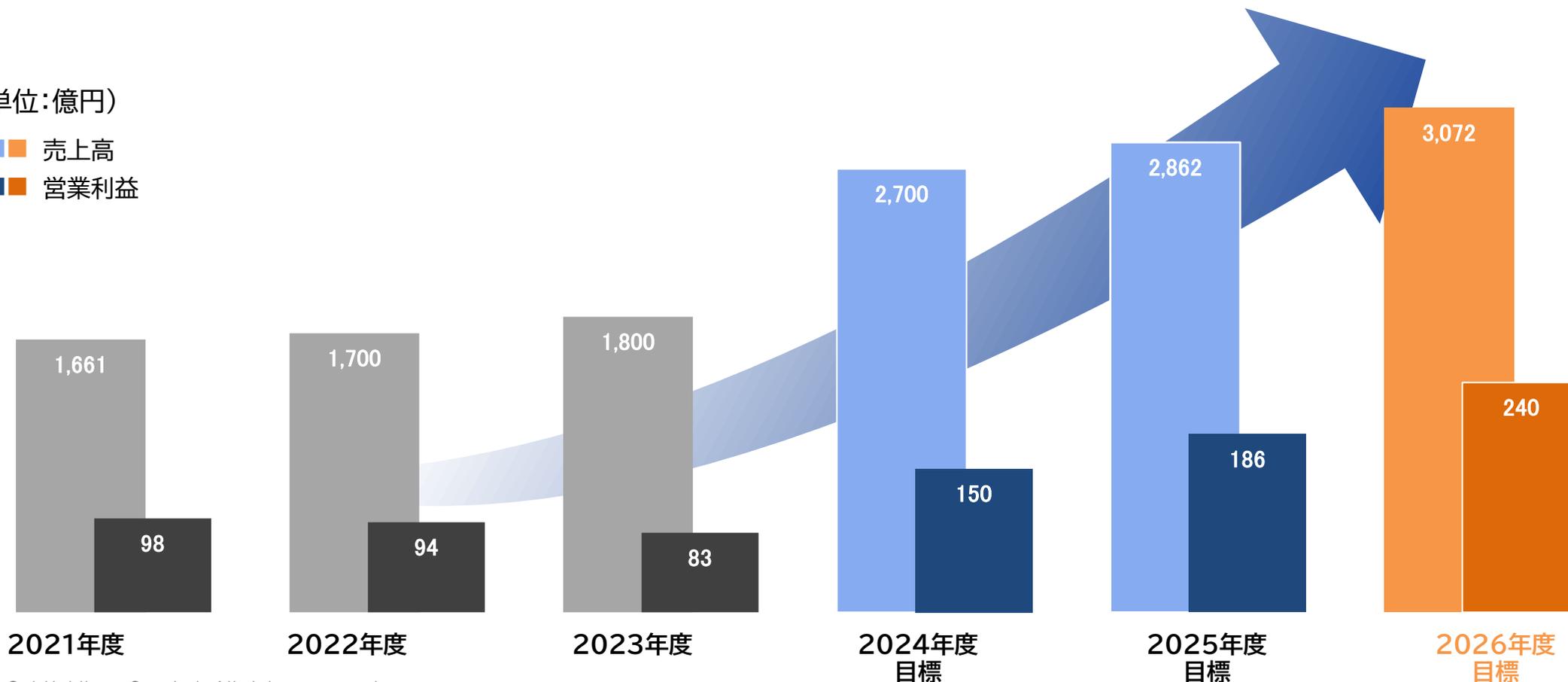
2026年度

売上高 **3000**億円

営業利益 **240**億円

(単位:億円)

■売上高
■営業利益



3つの成長戦略の数値目標を設定

<p style="writing-mode: vertical-rl;">保険薬局</p>	<p style="color: orange; font-size: 1.2em;">質の向上</p>	<p style="text-align: center;">売上高 年平均成長率</p> <p style="text-align: center;">コロナ禍以前の成長率へ回復</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">+4%以上</p>	<p style="text-align: center;">利益性改善</p> <p style="text-align: center;">技術料とコストのバランスを目標に設定</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">7%向上</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">医療関連</p>	<p style="color: orange; font-size: 1.2em;">規模拡大</p>	<p style="text-align: center;">オーガニックな成長</p> <p style="text-align: center;">年平均成長率</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">+10%</p>	<p style="text-align: center;">投資による規模拡大</p> <p style="text-align: center;">23年度売上比(オーガニック成長含む)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">150%</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">医薬品製造販売</p>	<p style="color: orange; font-size: 1.2em;">更なる成長</p>	<p style="text-align: center;">営業利益目標</p> <p style="text-align: center;">(第一三共エスファ) 22年度の営業利益水準まで回復</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">120億円</p>	<p style="text-align: center;">利益率</p> <p style="text-align: center;">(第一三共エスファ) 落ち込んだ利益率の回復</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">12%以上</p>

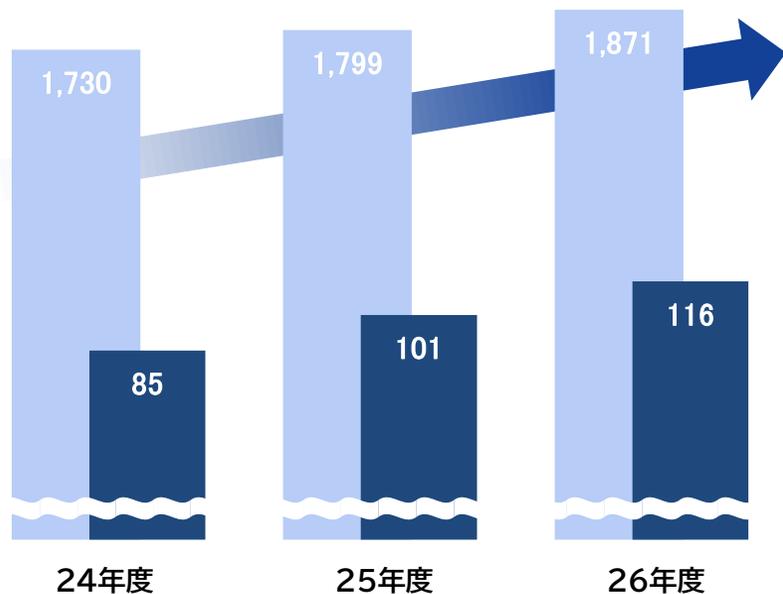
2026年度中期目標達成のための成長戦略 数値目標

保険薬局

- 方針① 売上高CAGR +4%
- 方針② 生産性 +7%

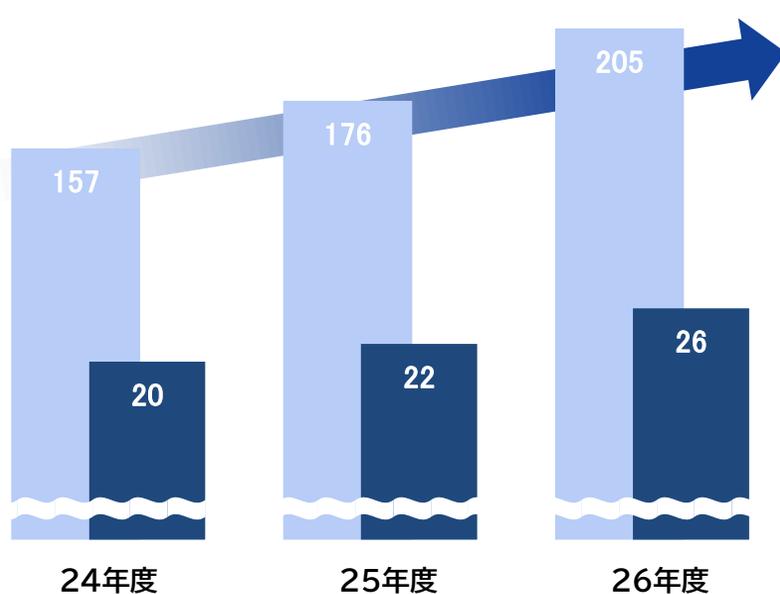
(億円)

■ 売上高
■ 営業利益



医療関連事業

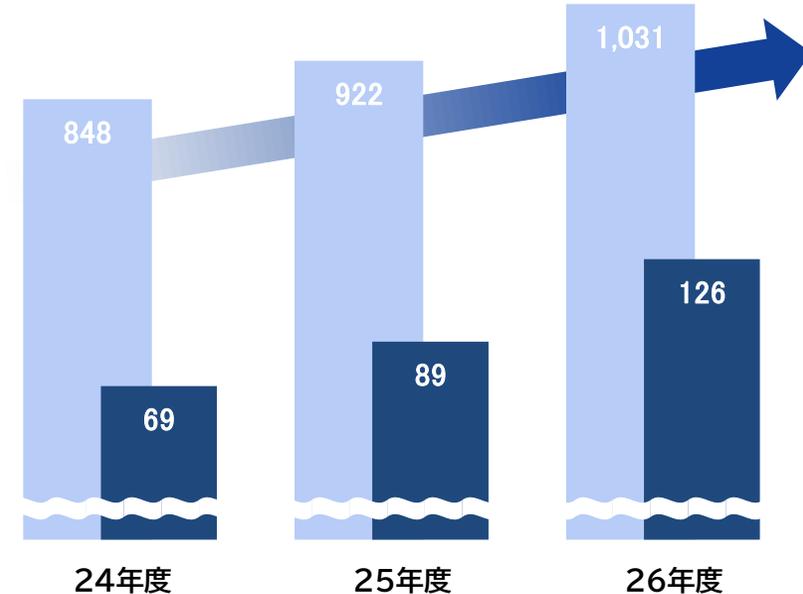
- 方針① 売上高CAGR +10%(オーガニック)
- 方針② 23年度比売上高 150%(①+M&A)



医薬品製造販売事業

(第一三共エスファ)

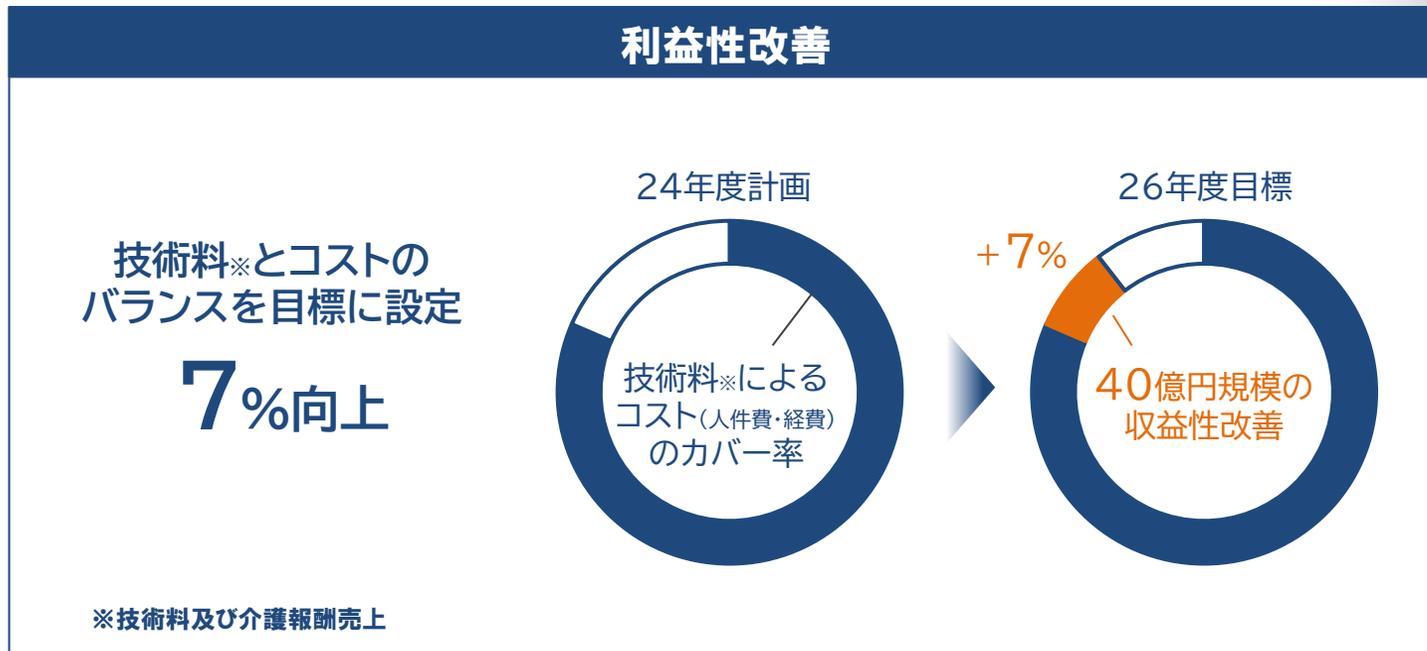
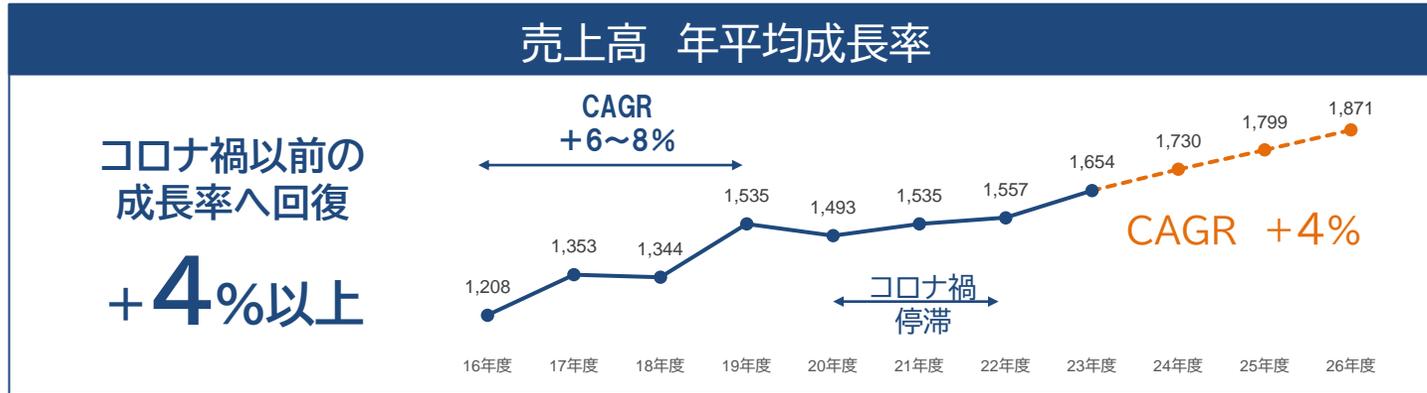
- 方針① 営業利益を22年度水準まで回復
- 方針② 落ち込んだ利益率の回復 12%



(1) 保険薬局事業

成長目標 **質の向上**

目標達成のための施策



- ### I. 引き続き積極的なM&A・出店
- ① 新規出店
 - ② M&A
 - ③ 既存店売上増加

- ### II. 収益とコスト両面から改善
- ③ 既存店受付回数の増加
 - ④ 技術料単価向上
 - ⑤ 生産性の徹底的な見直し
 - ⑥ コストのゼロベースでの見直し

- ### III. 調剤報酬以外の収益拡大
- ⑦ 健康・未病領域での新規事業 (サントリー・キリン他との協業)

(1) 保険薬局事業 (24年度 新規出店・M&A戦略)



新規出店やM&Aにより規模を拡大

新規出店

方針

- ✓ 医療機関誘致による新規出店を強化
- ✓ 大型案件((株)共栄堂)

年商
目標

30億円 16店舗

M&A

方針

- ✓ 調剤薬局は年商10億円以上の規模をメインに
- ✓ 医療関連事業にも注力

年商
目標

65億円

(2) 医療関連事業

方針① 26年度売上規模

23年度比 **150%**

(オーガニック成長含む)

方針② オーガニックの
平均成長

+10%

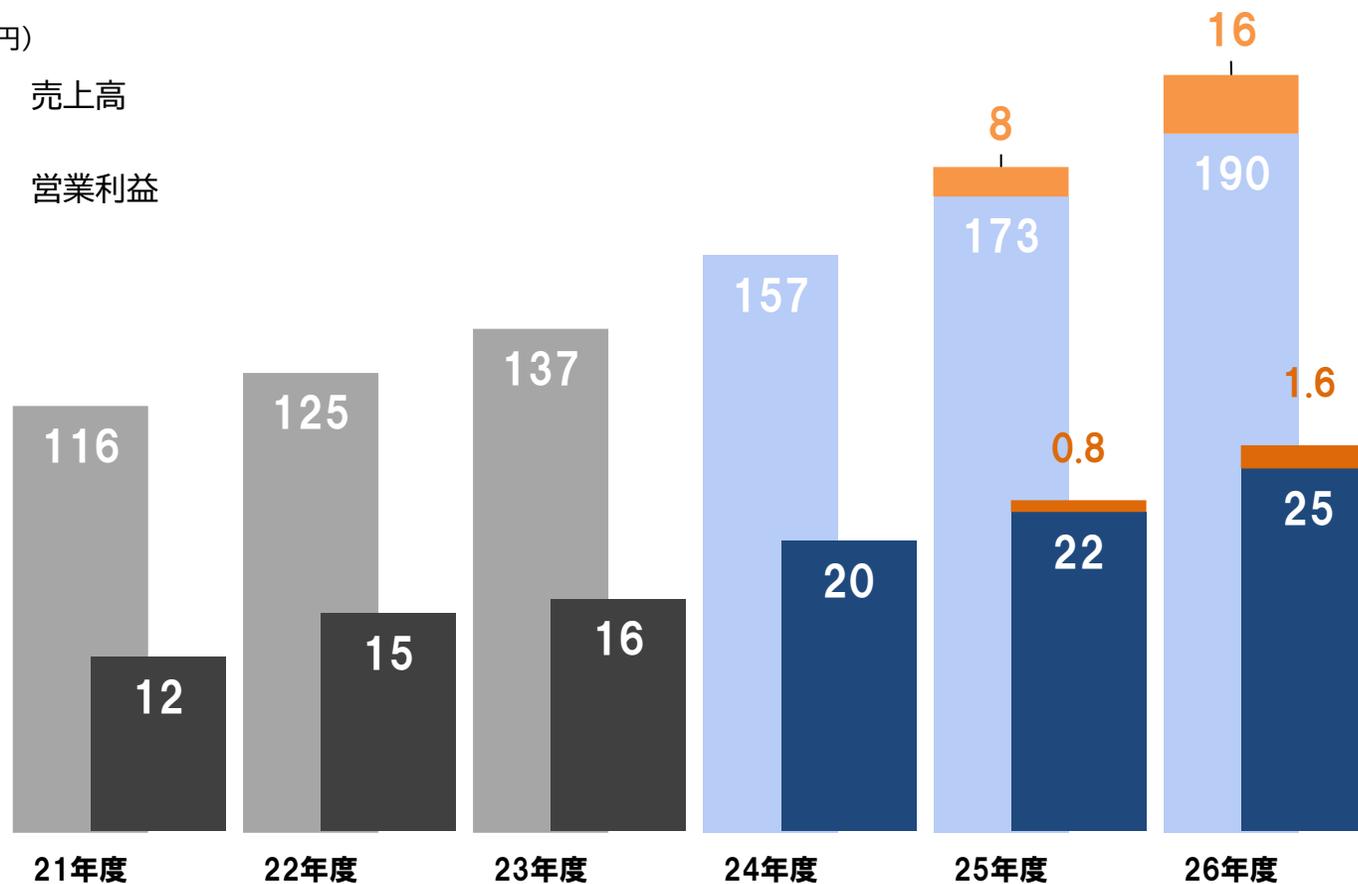
医療関連事業 合計

(単位:億円)

■ ■ ■ 売上高

■ ■ ■ 営業利益

※橙色はM&A目標

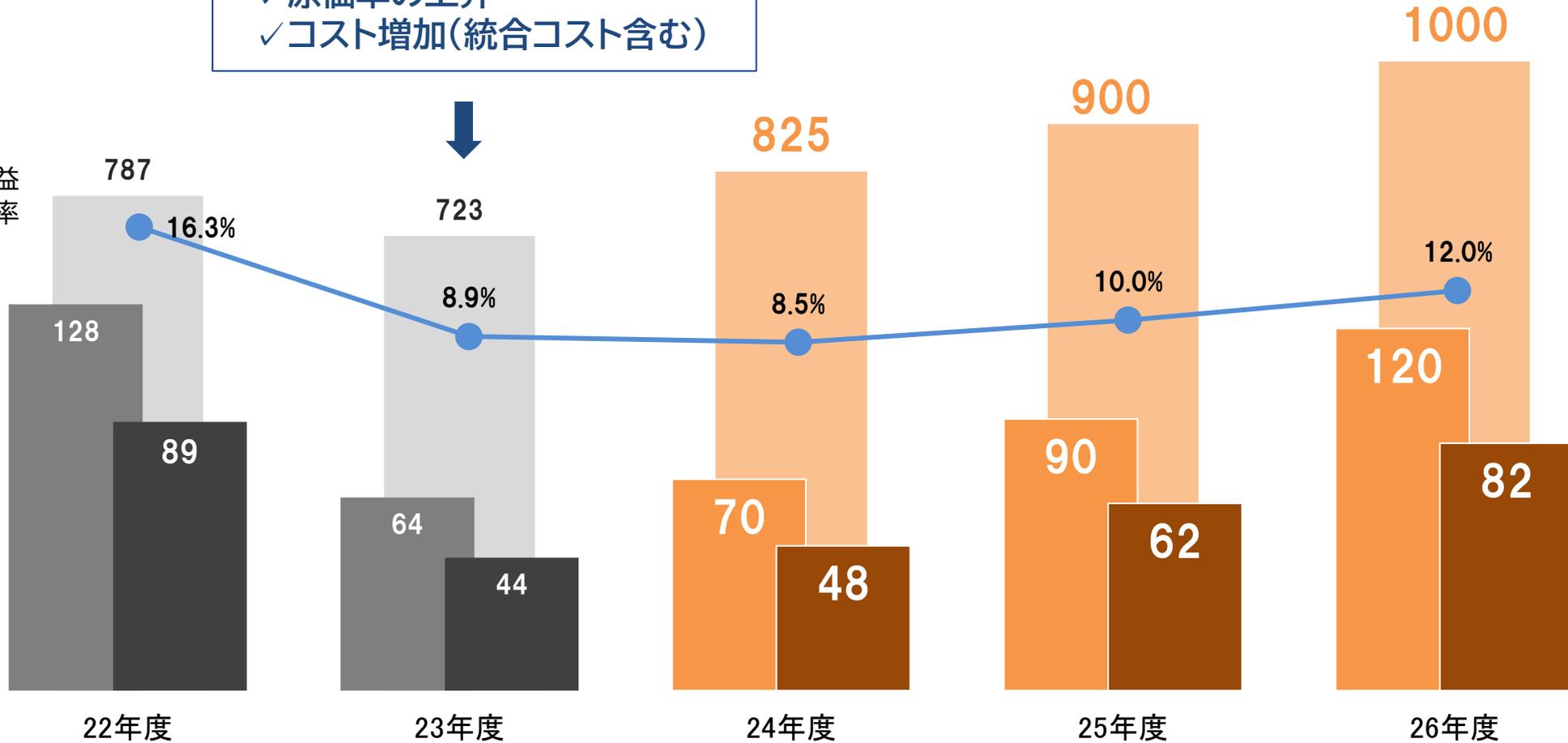


(3) 医薬品製造販売事業 ① 第一三共エスファの3か年目標

23年度の減益要因
 ✓ 新製品の遅れ
 ✓ 原価率の上昇
 ✓ コスト増加(統合コスト含む)

(億円)

- 売上高
- 営業利益
- 当期純利益
- 営業利益率



(3) 医薬品製造販売事業 ②第一三共エスファの3か年目標



23年度の課題

■3か年の具体的施策

新製品の
遅れ

✓ 毎年3～4品目のAG新製品発売を目標

原価率
上昇

✓ 製品毎の価格政策見直し
✓ パートナー企業との交渉
✓ 卸政策・流通経費の見直し

コスト増
(統合コスト等)

✓ 全ての経費のゼロベースでの見直し
✓ グループ全体で共通する経費の統合圧縮
ボリュームディスカウント交渉の実施

第一三共エスファを迎え

さらに強くなったグループの総合力を発揮し

中期目標に向けて更なる成長を実現

Ⅲ

事業戦略



グループ成長戦略の全体像

総合ヘルスケアカンパニー

研究
開発



製造



販売



病院
薬局



患者
さま



第一三共エスファ株式会社



藤永製薬株式会社



メディカルクオール株式会社

APO PLUS STATION



クオール薬局グループ
Quality Of Life



アポプラスキャリア

APO PLUS STATION

調剤

安定売上・安定収益

医薬品製造

売上成長・高収益



医療関連

高収益

クオールグループと第一三共エスファの融合

連結前



連結後



業務円滑化のための基礎的融合

新しい価値を創出する融合

全国
947店舗

中部
205店舗

関東
396店舗

近畿
145店舗

(2024年5月21日時点)

引き続き調剤薬局のM&Aを実施し
東名阪エリアを中心に規模拡大

2024年5月16日に(有)ダイナがグループ入り



空白県であった山梨県に18店舗

医療の質向上

- ・より良い医療を届ける→地域支援体制加算
- ・かかりつけの更なる推進
- ・医療DX

既存店受付回数
の増加

- ・在宅推進(専門店・個人在宅)
- ・クオーレおくすり便
(LINE事前処方箋送信&オンライン服薬指導)

調剤以外の
収益拡大

- ・企業とのコラボレーションによる健康事業の拡大
(サントリーウエルネス)
- ・店舗のデジタルサイネージ事業



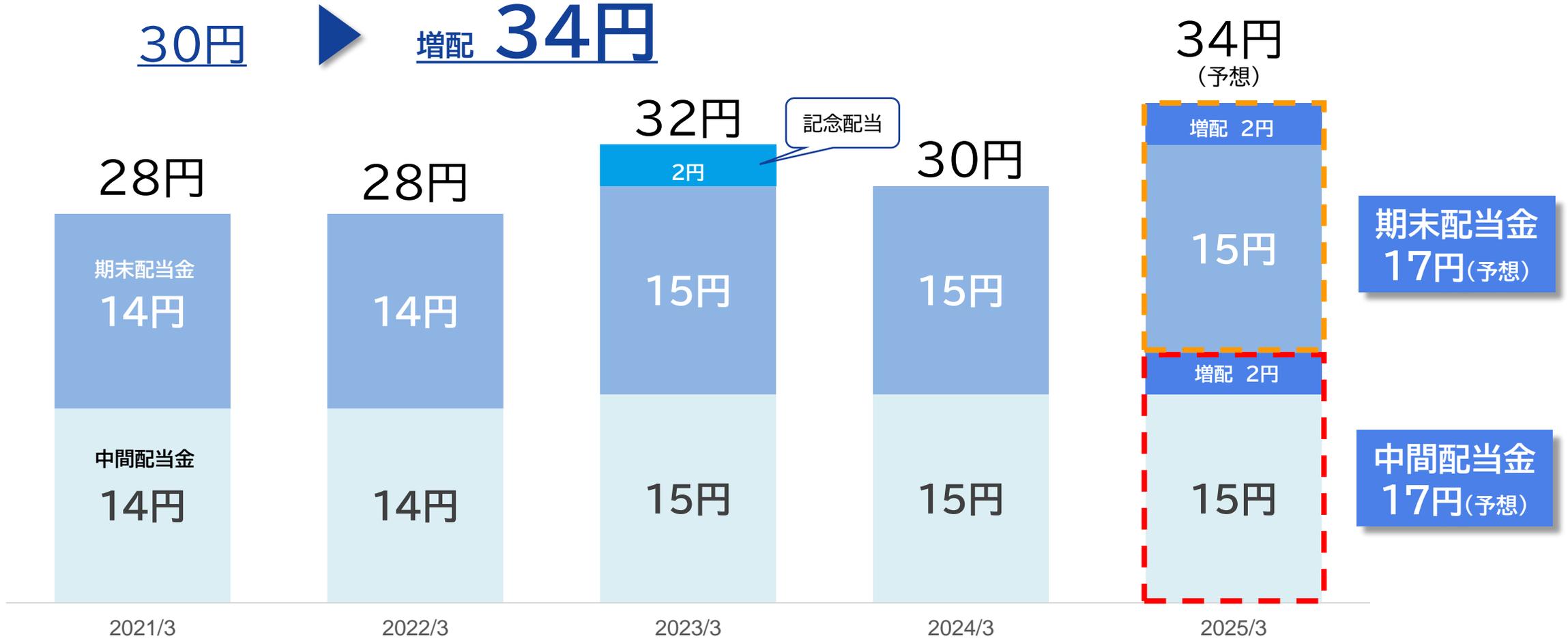
- ✓ 第一三共エスファの連結子会社化により増収増益を計画
- ✓ 過去最高の売上高、利益水準を計画

	2024／3期 実績	2025／3期予想		計	増減	増減率(%)
		上期	下期			
売上高	180,052	124,000	146,000	270,000	89,948	50.0%
営業利益	8,324	5,400	9,600	15,000	6,676	80.2%
経常利益	9,256	5,500	9,700	15,200	5,944	64.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,880	2,000	3,700	5,700	820	16.8%
1株当たり 当期純利益(円)	131.11	—	—	153.13	22.02	16.8%

配当予想



【増配】2025年3月期配当は前期比**4円増配**し、年間34円の配当を実施予定



IV

サステナビリティ 経営の推進



令和6年 能登半島地震におけるクオールグループの取組み

- ✓被災したクオール能登町薬局の仮設店舗を避難所に開設し
早期に開局して、運営を継続。
- ✓店舗が断水状態で開局できないため、通常の調剤業務は中止し、
処方元や避難所へお届けして服薬指導を行うなどの
個別対応を実施

切れ目ない

医療の提供へ



被災したクオール能登町薬局



仮設店舗 内部の様子



避難所通路での服薬指導の様子

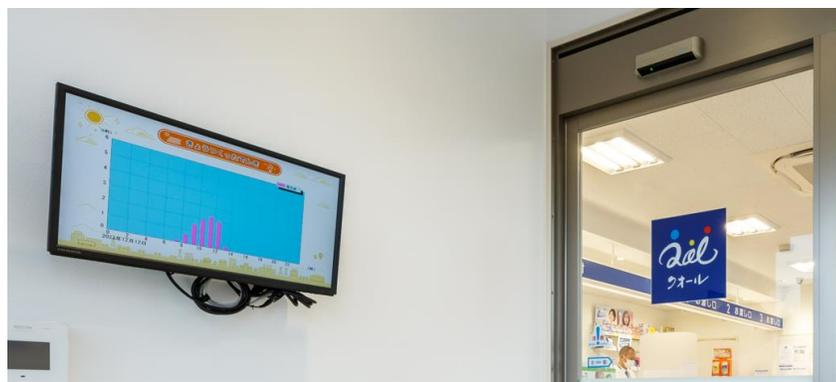
気候変動への対応(CO₂排出量の低減)

- 店舗・事務所への太陽光発電パネル設置導入を推進
- 店舗は使用電力の約4分の1、事務所は使用電力の100%超を太陽光発電で賄える想定

項目	目標年	目標値
グループ全体のCO ₂ 排出量	2050年	100%削減



(名古屋事務所屋上)



(発電量を可視化したモニターを店舗内に設置)



(クオール薬局前橋南店)

障がい者支援の推進

- 障がい者雇用の推進(クオールアシスト株式会社)
 - 2009年設立、保険調剤薬局業界では初の特例子会社として認定
 - 重度身体障がい者を中心に在宅雇用を推進

- 障がい者アート配信サービス『ParaCanvas』の導入
 - デジタルキャンバス(専用薄型モニター)で障がい者アーティストの作品を配信する『ParaCanvas』を導入
 - 配信料は「一般社団法人障がい者アート協会」を通じて障がい者アーティストへ支払

クオールグループは、マテリアリティとして、「地域のクオリティ オブ ライフ向上」を掲げています。障がい者支援の取組みを一層推進し、障がいの有無にかかわらず一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の実現を目指します。



(本社受付の様子)

切れ目ない医療



【IRお問い合わせ】

クオールホールディングス株式会社 広報部

TEL:03-6430-9060

FAX:03-5405-9012

E-mail:ir@qol-net.co.jp

お問い合わせページ:<https://www.qolhd.co.jp/inquiry/>

【免責事項】

本資料および参考資料の内容につきましては、株主・投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料に将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績は様々な要素により、これら見通しと大きく異なる結果となりうることもあり、確約や保証を与えるものではありませんのでご了承ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する決定は、株主・投資家の皆さまのご判断において行われますようお願いいたします。



あなたの、いちばん近くにある安心